科目名称	電気理論				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	3	学年	1	履修形態	必修
時間数	100	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①電流、電圧、電力及び電気抵抗　②導体及び絶縁体　③交流電気の基礎概念　④電気回路の計算　⑤実際の電気工事に必要な電気計算（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な電気理論の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画1（前期）	授業計画2（後期）
電線抵抗、オームの法則、合成抵抗、ブリッジ回路、電力、電力量、熱量、単相交流回路、三相交流回路、まとめ	電線抵抗、オームの法則、合成抵抗、ブリッジ回路、電力、電力量、熱量、単相交流回路、三相交流回路、まとめ

科目名称	配電理論・配線設計				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	1	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①配電方式　②引込線　③配線　④実際の電気工事に必要な電気計算（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な配電理論及び配線設計の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画１（前期）	授業計画２（後期）
電圧種別、単相2線式、単相3線式、三相3線式、過電流遮断器（ヒューズ、配線用遮断器）、需要率、負荷率、絶縁電線等の許容電流、屋内幹線の施設、分岐回路の施設、電動機の過負荷保護、漏電遮断器の施設、住宅の屋内電路の対地電圧の制限、まとめ	電圧種別、単相2線式、単相3線式、三相3線式、過電流遮断器（ヒューズ、配線用遮断器）、需要率、負荷率、絶縁電線等の許容電流、屋内幹線の施設、分岐回路の施設、電動機の過負荷保護、漏電遮断器の施設、住宅の屋内電路の対地電圧の制限、まとめ

科目名称	電気機器・配線器具・材料工具				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	3	学年	1	履修形態	必修
時間数	90	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①電気機器及び配線器具の構造、性能　②電気工事用の材料の材質及び用途　③電気工事用の工具の用途　④実際の電気工事に必要な機器の取り扱い（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な電気機器、配線器具及び材料工具の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画１（前期）	授業計画２（後期）
三相誘導電動機（同期速度、回転方向、始動電流、始動方法）、照明器具（光源、蛍光灯、蛍光灯部品の働き）、電気工事用材料（電線、ケーブル）、測定器、配線器具（スイッチ種類、コンセント種類、コンセント極配置）、配線器具（スイッチ種類、コンセント種類、コンセント極配置）、工具（金属管用工具、電線接続用工具、合成樹脂管用工具、穴あけ工具等）　まとめ	三相誘導電動機（同期速度、回転方向、始動電流、始動方法）、照明器具（光源、蛍光灯、蛍光灯部品の働き）、電気工事用材料（電線、ケーブル）、測定器、配線器具（スイッチ種類、コンセント種類、コンセント極配置）、配線器具（スイッチ種類、コンセント種類、コンセント極配置）、工具（金属管用工具、電線接続用工具、合成樹脂管用工具、穴あけ工具等）　まとめ

科目名称	施工方法				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	70	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①配線工事の方法　②電気機器及び配線器具の設置工事の方法　③コード及びキャブタイヤケーブルの取付方法　④接地工事の方法　⑤実際の電気工事に必要な接地工事方法（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な施工方法の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画１（前期）	授業計画２（後期）
施工場所と工事の種類、メタルラス等との絶縁、屋内配線と弱電流電線等との接近・交差、電線の接続、接地工事（接地抵抗値、接地線の太さ、接地工事の省略できる場合）、各種工事（金属管工事、金属製可とう電線管工事、合成樹脂管工事、ケーブル工事、金属線ぴ工事、金属ダクト工事、ライティングダクト工事等）、ショウウィンドー内の配線工事、特殊な場所の工事、小勢力回路、地中電線路、まとめ	施工場所と工事の種類、メタルラス等との絶縁、屋内配線と弱電流電線等との接近・交差、電線の接続、接地工事（接地抵抗値、接地線の太さ、接地工事の省略できる場合）、各種工事（金属管工事、金属製可とう電線管工事、合成樹脂管工事、ケーブル工事、金属線ぴ工事、金属ダクト工事、ライティングダクト工事等）、ショウウィンドー内の配線工事、特殊な場所の工事、小勢力回路、地中電線路、まとめ

科目名称	検査方法				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	1	学年	1	履修形態	必修
時間数	15	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①点検の方法　②導通試験の方法　③絶縁抵抗測定の方法　④接地抵抗測定の方法　⑤試験用器具の性能及び使用方法　⑥実際の電気工事に必要な電気計測（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な検査方法の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画1（前期）	授業計画2（後期）
電気計器の種類、使用方法、電圧計、電流計、電力計の接続、クランプ形計器、絶縁抵抗測定、接地抵抗測定、検査器具の用途、竣工検査の手順、まとめ	電気計器の種類、使用方法、電圧計、電流計、電力計の接続、クランプ形計器、絶縁抵抗測定、接地抵抗測定、検査器具の用途、竣工検査の手順、まとめ

科目名称	配線図				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	50	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①配線図の表示事項及び表示方法　②実際の電気工事に必要な電気配線図作成（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な配線図の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画１（前期）	授業計画２（後期）
配線用図記号（名称、図記号、写真、用途等）、単線図、複線図、電線条数、電線接続（差込形コネクタ、リングスリーブによる圧着接続等）、材料選別（配線、照明器具、配線器具、写真、用途等）、まとめ	配線用図記号（名称、図記号、写真、用途等）、単線図、複線図、電線条数、電線接続（差込形コネクタ、リングスリーブによる圧着接続等）、材料選別（配線、照明器具、配線器具、写真、用途等）、まとめ

科目名称	電気法規				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	50	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	①電気工事士法、同法施行令、同法施行規則　②電気設備に関する技術基準を定める省令　③電気用品安全法、同法施行令、同法施行規則及び電気用品の技術上の基準を定める省令　④実際の電気工事に必要な機器や材料の安全表示確認（実務教員による指導）				
目的	電気工事士に必要な電気法規の理解				
到達目標	電気工事士筆記試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	筆記試験の過去の問題を理解させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	試験、レポート提出、課題等により総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画1（前期）	授業計画2（後期）
電気設備技術基準・解釈、電気事業法（電気工作物の種類、調査等）、電気工事士法（目的、資格、義務、免状交付、電気工事士でなければできない作業、電気工事士でなくてもできる軽微な作業等）、電気工事業法（目的、主任電気工事士、器具の備付け、標識、帳簿の備付け等）、電気用品安全法（目的、特定電気用品、特定電気用品以外の電気用品、種類、表示等）、まとめ	電気設備技術基準・解釈、電気事業法（電気工作物の種類、調査等）、電気工事士法（目的、資格、義務、免状交付、電気工事士でなければできない作業、電気工事士でなくてもできる軽微な作業等）、電気工事業法（目的、主任電気工事士、器具の備付け、標識、帳簿の備付け等）、電気用品安全法（目的、特定電気用品、特定電気用品以外の電気用品、種類、表示等）、まとめ

科目名称	実習				
教員名/実務経験	末續智・南和幸・熊谷雅文/あり				
開講年度	2025年				
開講学科	電気工事士科				
単位	19	学年	1	履修形態	必修
時間数	570	科目区分	専門	授業の種類	実習
概要	①電線の接続　②配線工事　③電気機器及び配線器具の設置　④電気機器、配線器具及びに電気工事用の材料及び工具の使用方法　⑤コード及びキャブタイヤケーブルの取付け　⑥接地工事　⑦電流、電圧、電力及び電気抵抗の測定　⑧一般用電気工作物の検査				
目的	電気工事士に必要な実習ができる				
到達目標	電気工事士技能試験の合格				
到達目標に向けての具体的な取り組み	公表問題を理解させ、反復実習させる				
準備学習の具体的な方法	次回の講義に備えて、教科書を読んでおくこと。受講した内容を忘れないようにノート及び配布プリントに目を通しておくこと。				
単位認定の方法	実習（ケーブル及び電線の加工、配線器具の取付、電線の接続、各種工事の材料及び工具の使用方法等）の総合的に評価を行う				
評価の基準	秀（90点以上）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～68点）、不可（59点以下）として、60点以上を合格とする。				

授業計画1（前期）	授業計画2（後期）
工具取り扱い、電線被覆剥ぎ取り、電線接続、配線器具取付、スイッチ・コンセント配線、2連スイッチ配線、パイロットランプ・スイッチ配線、3路スイッチ配線、公表問題NO.1～NO.13 、がいし引き工事、金属管工事、ケーブル工事、合成樹脂管工事、3路スイッチ回路、2点灯2点滅、自動点滅器回路、ラス張り貫通工事、端子付ジョイントボックス配線、引き込み口配管、電線接続（より線）、電動機工事、分岐回路工事、単相配線工事、金属管工事、合成樹脂線ぴ工事、合成樹脂管工事、漏電遮断器工事、フロア工事、天井工事、ライティングダクト工事、移動電線工事、コンクリート直埋工事、リモコンリレー工事、共聴工事、屋側配線工事、ネオン放電灯工事、レースウェイ工事、電線被覆剥ぎ取り、電線接続、配線器具取付、公表問題NO.1～NO.10、まとめ	工具取り扱い、電線被覆剥ぎ取り、電線接続、配線器具取付、スイッチ・コンセント配線、2連スイッチ配線、パイロットランプ・スイッチ配線、3路スイッチ配線、公表問題NO.1～NO.13 、がいし引き工事、金属管工事、ケーブル工事、合成樹脂管工事、3路スイッチ回路、2点灯2点滅、自動点滅器回路、ラス張り貫通工事、端子付ジョイントボックス配線、引き込み口配管、電線接続（より線）、電動機工事、分岐回路工事、単相配線工事、金属管工事、合成樹脂線ぴ工事、合成樹脂管工事、漏電遮断器工事、フロア工事、天井工事、ライティングダクト工事、移動電線工事、コンクリート直埋工事、リモコンリレー工事、共聴工事、屋側配線工事、ネオン放電灯工事、レースウェイ工事、電線被覆剥ぎ取り、電線接続、配線器具取付、公表問題NO.1～NO.10、まとめ

科目名称	0				
教員名/実務経験	0				
開講年度	0				
開講学科	0				
単位	0	学年	0	履修形態	0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類	0
概要	0				
目的	0				
到達目標	0				
到達目標に向けての具体的な取り組み	0				
準備学習の具体的な方法	0				
単位認定の方法	0				
評価の基準	0				

授業計画1（前期）	授業計画2（後期）
0	0